

第 5 号様式(第 7 条関係)

会議録

会議の名称	第 4 回清須市総合計画審議会
開催日時	令和 6 年 7 月 3 1 日 (水) 午後 1 時 3 0 分から午後 3 時 3 0 分まで
開催場所	清須市役所南館 3 階 大会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 《審議事項》 (1) 第 3 次総合計画 序論・基本構想の検討について (2) 第 3 次総合計画 前期基本計画の検討について 4 閉会
会議資料	会議次第、委員名簿、配席図 〔会議資料〕 資料① 第 3 次総合計画 序論・基本構想案 資料②-1 第 3 次総合計画 前期基本計画案の修正点 資料②-2 第 3 次総合計画 前期基本計画案 参考資料① 清須市総合計画審議会設置条例・清須市総合計画 審議会の公開等
公開・非公開の 別（非公開の場 合はその理由）	公開
傍聴人の数 （公開した場合）	1 人
出席委員	後藤（小）委員、水野委員、後藤（鈴）委員、山内委員、 後藤（隆）委員、山田（宗）委員、佐藤委員、梶浦委員、 渡辺委員、野田委員、水谷委員、山田（康）委員、齋藤委員、 前田委員、伊藤委員、原委員、高山委員、横井委員
欠席委員	時田委員
出席者（市）	永田市長、葛谷副市長、天竺教育長、河口企画部長、 岩田総務部長、飯田危機管理部長、石田市民環境部長、 丹羽健康福祉部長、長谷川建設部長、後藤議会事務局長、 石黒教育部長、三輪会計管理者、吉田監査委員事務局長

事務局	〔企画部企画政策課〕 林企画部次長兼企画政策課長、山口課長補佐、 神野課長補佐兼企画政策係長、秋山副主任幹、岩田主任主査 〔株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所〕 江口支社長補佐
会議録署名委員	山田（宗）委員、佐藤委員
1 開会 （林企画部次長兼企画政策課長） ただいまより、第4回 清須市総合計画審議会を開会します。 審議会の開催にあたりまして、はじめに、永田市長からごあいさつを申し上げます。 2 あいさつ （永田市長） 皆さんこんにちは。厳しい暑さが続いていますが、委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。 前回、合計特殊出生率が県内で1位になったこととお話ししましたが、今月、人口動態調査が発表されました。その結果、愛知県内における出生率でも清須市が第1位になりました。昨年は第2位であったものが、1位に返り咲き嬉しいのですが、生まれる子どもの実数自体は減っていますので、本市としても引き続き少子化対策にしっかりと取り組んでいきたいと思っています。 また、前回の審議会で、委員の皆さまには、主に前期基本計画の素案の内容について、ご審議をいただきました。 おかげをもちまして、次期総合計画であります『清須市第3次総合計画』も、その全体像ができあがりつつあり、『これから清須市が目指すべき方向性』が、より明確になってきたというように感じています。 今回の審議会におきましても、基本構想・基本計画の全体について、より細部にわたって、委員の皆さまそれぞれのお立場から、ご意見をいただけたらと思います。 清須市がよりよいまちとして発展していくための指針として、第3次総合計画を委員の皆さまと一緒に練り上げていきたいと思っています。本日も活発なご意見をよろしくお願い申し上げ、冒頭のごあいさつとさせていただきます。 （林企画部次長兼企画政策課長） 本日の会議は、委員 19 名中、18 名のご出席をいただいておりますので、清須市総合計画審議会設置条例第6条第2項の規定により、会議が成立することを報告します。 それでは、以降の議事進行は野田会長にお願いいたします。	

(野田会長)

本日は、第4回目の総合計画審議会となりました。委員の皆さまから、忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。

はじめに、今回の会議録署名委員を指名させていただきます。今回は、山田(宗)委員と佐藤委員にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

3 議事

《審議事項》

(1) 第3次総合計画 序論・基本構想の検討について

(2) 第3次総合計画 前期基本計画の検討について

(野田会長)

それでは、議事に入ってまいります。議事の審議事項(1)、(2)について、一括して説明をお願いいたします。

(岩田主任主査)

【資料①、②-1、②-2に基づき説明】

(野田会長)

ただいま事務局から説明をいただきました。前回の審議会で出た意見を踏まえて基本計画案を修正し、また、7つの政策の冒頭部分に、背景や現状がわかるページの案を作成したということでした。皆さんからご意見や質問等ありましたら、ご発言をお願いします。

(前田委員)

基本計画50ページの「政策2 子どもの笑顔があふれるまちをつくる」の文字の間隔に比べて、60ページの「政策3 誰もが健やかにいきいきと暮らせるまちをつくる」の文字の間隔に詰まりがあるように見えますがいかがでしょうか。

(岩田主任主査)

各施策ごとに、関連するSDGsのマークを並べて表記しています。この資料上、このマークを入れるにあたり上のスペースがとれなかった箇所については、文字の間隔を詰めて調整をしています。実際に製本する際には、改めて全体のレイアウトの構成を検討いたしますが、そのときに、今ご指摘いただいた点も意識して考えていけたらと思います。

(後藤(小)委員)

私は、教育委員という立場ですので、主に子どもに関わる部分の意見を述べさせていただきます。先ほどの説明の44ページ「政策2 子どもの笑顔があふれるまちをつくる」という部分についてですが、44～47ページにかけて、グラフ、図、写真などを用いて、大変理解しやすく見やすくなっていると思います。

47 ページには、「清須こども・はぐくみ宣言」の記述があり、宣言文、写真が掲載されることによって市として力を入れてやっていくという思いが伝わるものとなっており、清須市の進んでいく方向性がしっかりと伝わり好感が持てました。

気になった点として、46 ページ④の不登校児童・生徒数についてですが、教育委員会でも、今月の中旬に清須市総合教育会議が開催されまして。この会議の中でも、不登校の問題は、1年半前から毎回議題にあがっており、常に考えている問題になります。全国的な問題ですが、清須市においても、グラフに示されているとおり毎年増加しています。不登校と言っても理由や状況は様々であり、学校に行けない、行きたくないのは心身の不調や、家庭の事情もあると聞いています。何とか登校できても学校の生活に不安や悩みがあったり、実際に学校に行っても教室で授業が受けられない子どもも増えていると聞いています。教育現場においては、こういった子どもたちに対する支援が必要であって、その市の方針として、「ふれあいプラン」を作成しており、現在、その案が示されたところだと思います。この案では、清須市内の小中学生一人ひとりの成長を支えて自立へのサポートにつながるような取り組みをしていこうという、子どもに寄り添いながら、皆で子どもたちのサポートに取り組んでいくという内容になっています。

こういった、ふれあいプランの案ができたところですので、改めて内容の再検討をいただけたらと思います。

また、関連して、52 ページの達成度指標の一番下に「不登校児童・生徒の人数」があり、今後はこの数を減らしていくという目標になっています。勿論、減っていくことは良いことなのですが、ここだけを切り取って目標としてしまうと、ただ数を減らせばよいというように見えてしまって、気になってしまいますがいかがでしょうか。

(野田会長)

今年の4月に清須市は「清須こども・ははぐくみ宣言」をしました。愛知県内でも出生率1位ということでしたので、素晴らしいことだと思います。子どもの教育に関する分野の中でも、とりわけ不登校は全国的な問題となっていて、不登校の原因がわからないと対策ができないですし、不登校の背景は個別に違うため、それを減らすことだけを切り取って達成度の指標にするのはいかがなものかというご意見でした。事務局ではどのように考えていますか。

(石黒教育部長)

後藤委員からご指摘のように、総合教育会議や教育委員会の協議会において、何らかの理由で学校に来られない児童・生徒への支援について検討をしてきました。そうした考えをここで反映できるように、指標部分については再考したいと思います。

(野田会長)

理由がわかれば減らしていくことができますが、現状で増えてきているものについての支援を徹底していくという方向でよろしくをお願いします。

(山内委員)

全体的に非常に読みやすくできていると思います。外来語やカタカナも少ないので理解しやすかったです。ただ、33 ページ③4行目にある「スパン」という言葉がわかりにくいので、「短い間隔」、「時間の幅」等に言いかえてほしいです。「グレーゾーン」という言葉も説明があるとわかりやすいのではないのでしょうか。

(野田会長)

「スパン」は「間隔」と表現したほうがわかりやすいと思いますので、修正をお願いします。「グレーゾーン」については、あえて直接的な表現は避けているのかなと思いますが、そこも含めて事務局で再考いただきたいと思います。

(後藤(隆)委員)

先ほど前田委員がおっしゃられた文字の間隔についてですが、60 ページの現状・課題の右側がそろっていません。他のページも揃ってないので気になりました。

山内委員がおっしゃった最近の言葉についてですが、序論・基本構想案8ページ一番下の行の「ダブルケア」、9ページの1行目「8050 問題」、「ヤングケアラー」があります。私はヤングケアラーという言葉がこの計画の案を見て初めて知りました。ダブルケアについては言葉の前に説明があるのでわかります。8050 問題やヤングケアラーについて調べてみたのですが、日本総研が調べたところでは、聞いたことがあり内容を知っている人は 29%しかいません。いきなりこの言葉がでてくるとわからないので注釈をつけてはどうでしょうか。

(野田会長)

「8050 問題」、「ヤングケアラー」は、ここ1、2年テレビでも特集されたりしています。調べていただいた日本総研の調査は最近の調査ですか。

(後藤(隆)委員)

最近のものです。

(野田会長)

ヤングケアラーという言葉も、福祉の分野では割と一般的な言葉になりつつある時代になってきていると思いますが、文章中に説明を加えたり、違う言葉に置き換えると、それはそれで読みづらくなるかなと思いますので、注釈を加えるなどで対応をお願いします。

(横井委員)

79 ページ⑦市の特産物についてですが、特産品の土田かぼちゃを使用したソフトクリームを作るなどしてはどうでしょうか。清洲城も近くにあるのでSNSを活用して発信すると人が集まり何か起きるのではないのでしょうか。今は土田かぼちゃのアイスクリームがあるのですが、アイスクリームだと固すぎて手が不自由な人はスプーンですくって食べるのが難しいので、柔らかいソフトクリームだと子どもから高齢者まで食べられると思いました。

(野田会長)

この計画の中に反映していくというよりは、いまの具体的な意見を担当課に渡して、今後の事業展開に反映させていくべきお話かなと思いますがそのような趣旨でよろしいですか。

(横井委員)

はい。今の意見は計画の文章を変えてほしいということではなく、清須からあげまぶしだけでなく、清須市の特産物を使い何か開発してはどうかと思って発言させてもらいました。

(野田会長)

事務局として回答できることはありますか。

(石田市民環境部長)

貴重なご意見をありがとうございました。清須市の伝統野菜を使った新しい特産品の開発には、現在、市も力を入れていて、目標をもって毎年1品、2品と開発を続けてきたところです。今後も、今ご意見としていただいたソフトクリームなども含めて検討しながら、新たな特産品を作っていきたいと思っています。

(山田(康)委員)

38 ページ現状・課題の2つ目の丸に「地域の自主防災活動について、より実践的な訓練の実施や女性の参加率を上げるなど」とあるのですが、現在の状況は女性の参加率が低いというデータがどこかにあるということですか。

(野田会長)

私はそのように理解していますが、データについていかがでしょうか。

(山田(康)委員)

この「自主防災活動」とは、地域やブロックでの防災訓練やそういったところへの参加の話でしょうか。

(野田会長)

自主防災活動について女性の参加率を上げるということだと思います。ぜひ、齋藤委員にご意見をお願いしたいです。

(齋藤委員)

私が所属している第4ブロックは女性の方が多くいます。

(山田(康)委員)

女性が少ないというデータはどこかにあるでしょうか。

(飯田危機管理部長)

確かに齋藤委員がおっしゃったように、地区によってはメニューに応じて女性の参加が多い場合があります。例えば、炊き出し訓練がある自主防災訓練だと女性の参加が非常に多いのですが、消火訓練や避難訓練がメインになる場合は、女性の参加が少なくなります。今後はメニュー等も考えて女性の参加を少しでも増やしていきたい充実した訓練にしていきたいということで上げています。

(野田会長)

統計をとっているわけではなく、そのような声を聞いているということですね。炊き出し訓練も全部の地区でやっているわけではないので、総じて女性の参加が少ないという認識でよいでしょうか。

(飯田危機管理部長)

自主防災訓練を行った場合、各団体から実績をいただいております、男女の参加者数も分かるようになっていきます。今、この場では分かりかねますが、メニューによって男女比の差がありながらも、全体としては、もっと女性の参加を促していきたいと考えています。

(高山委員)

総合戦略と対応する部分について、記載をわかりやすくしていただきありがとうございます。17 ページに基本目標①から③があり、戦略事業として基本目標の該当部分にふられているわけですが、広く見てしまうと、ほとんどの施策に関係するのではないのでしょうか。例えば、51 ページの子どもの居場所づくりに関することでは施策の展開が4つありますが、取組3のところには戦略マークがありません。ここに戦略①はつかないのかと思いました。マークが入る・入らないの基準はあるのでしょうか。明確な基準があればどこかに記載されるとよいと思います。

(野田会長)

まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組と基本計画との対応に関することですね。事務局いかがでしょうか。

(秋山副主幹)

高山委員のご指摘については、30 ページ達成度指標の一番下に『①～③は戦略における「3つの基本目標」(17 ページ参照)の指標に対応しています。』と説明をしています。18 ページから 20 ページに各戦略の基本目標にかかる数値目標があります。例えば、18 ページであれば合計特殊出生率、20 ページであれば、保育園の入園待機児童数と戦略の指標と同じ指標があります。同じ指標ですという意味で、戦略①という記載になっています。

(野田会長)

戦略と書かれている部分については、戦略における指標と対応しているということですね。

(秋山副主幹)

そうです。厳密にいうと高山委員がおっしゃったように、総合戦略は、基本計画全体に横串を刺すものなので、広く解釈すると、いろいろな事項に対応してくると思いますが、戦略①という表記はあくまでも基本計画の達成度指標と 18 から 20 ページの戦略にかかる数値目標が同じものであるという説明です。

(野田会長)

指標については同じものということで分かりやすいのですが、取組の方については、31 ページの説明のなかで、「戦略とは… 3 つの基本目標の取り組みに対応しています。」と記載してあって、基本計画の中でマークがついていない部分も関係しているのではと思われる可能性もあるということかなという気がします。

(岩田主任主査)

今のお話で、具体的にひとつ例を挙げて、51 ページの子どもの居場所づくりに関して、広く解釈すると、1 の「子どもの人権の擁護」や 3 の「ファミリーサポートセンターの運営」も、戦略の取組に関連すると言えるのではないかというご指摘であったと思います。確かに広く解釈すると、他にも関連してくる取組が出てくるのではというのはその通りなのですが、今は、総合戦略の中で「具体的な取組と K P I」という項目がありまして、ここに記載されている内容に、直接関連する取組に、この戦略のマークがついているという整理になっています。

(野田会長)

30・31 ページの吹き出しの書き方はもう少し工夫できそうです。「同じ指標の場合に」など、もう少し踏み込んだ方が誤解がないかと思います。

(岩田主任主査)

今のご指摘をふまえて、もう少しわかりやすい表現にできるよう検討します。

(伊藤委員)

50 ページの現状・課題の 2 つ目の 2 行目に「2026（令和 8）年 3 月末日をもって小学校の部活動が廃止される」とありますが、なぜ廃止されるのですか。3 行目に「部活動廃止後の高学年の居場所づくりについて、地域や団体を含めて検討を進める必要があります」とありますが、現時点で、地域や団体で何か検討されていることがあったら教えてください。

(石黒教育部長)

小学校の部活動は、学習指導要領に記載がない活動であり、教員の働き方改革を含めて、全国的に部活動をなくしていく方向で進められています。本市においても小学校については令和 7 年度の 3 月末で廃止することを決定しました。地域や団体も含めての検討についてですが、今、具体的には動いていません。今後、中学校の部活を存続させるのか廃止するのか、土曜日、日曜日についての活動は文部科学省

で縮小・廃止していくことが示されています。本市においても、土曜日は学校の先生ではなく、地域の人たちで教えることができないかと考えているところです。

(野田会長)

小学校で部活動をやっているのですね。

(石黒教育部長)

今は、小学校の4年生以上は部活動に入っています。段階的に入部を抑えて令和7年度末をもって廃止をすることが決まっています。

(野田会長)

更に、今後は、中学校も含めて部活動の廃止を検討されるということでした。理由は働き方改革、先生方の業務量が多くなりすぎて負担となっているということです。一方で、児童・生徒側からすると、部活動に参加したいという思いがある子どもたちもいますので、そのあたりも地域・団体が受け皿になってくれるよう検討しているということですね。

(石黒教育部長)

おっしゃるとおりです。

(齋藤委員)

主な修正点で追加された記述で、41 ページ「すぐメール」についてですが、登校時に不審者がいても、その日の午後にしか情報が入ってきません。下校時の不審者情報は次の日にメールが届きます。すぐメールという役割は果たしているのでしょうか。

(野田会長)

名前が「すぐメール」なので情報がタイムリーにくるのだと思っていたのですが、どうでしょうか。

(飯田危機管理部長)

おっしゃるとおりで、「すぐメール」の発信には、警察との連絡調整の関係もあり若干のタイムラグが生じます。

(野田会長)

こればかりは警察との調整が必要となるので仕方ないのかもしれないですね。

(飯田危機管理部長)

例えば、午前中の登校時に不審者に遭遇した場合、まず、児童・生徒が保護者や学校に連絡をします。それを更に警察にも通報するかしないかは、保護者の判断に委ねられます。保護者が警察への通報を希望した場合は、その不審者情報を警察が

各機関に流し、市役所からそれを「すぐメール」で登録者に配信するという流れになっており、それが結果として夕方になってしまうのが現状です。

ただ、すぐメールの役割としては、すぐに犯人をつかまえるために情報を配信するというよりは、地域の人たちが注視することで見守りを喚起するという役割もございますので、一定の役割は果たせていると思います。

(野田会長)

分かりました。そういった情報はできる限り早めにあると、市民にとって住みやすく、はぐくみの部分が更に強化できると思います。都道府県間や地域によって違いはあると思いますが、市としては情報配信をできるだけ早くできるよう準備を整えるぐらいしかできないので、そのような心づもりで今後も取り組んでいただきたいと思います。

(渡辺委員)

46 ページ⑤特別支援学校・特別支援学級に通う児童・生徒数についてですが、現状の部分で「グレーゾーン等の子どもも増加しており」とあります。この課題に対応する取組が学校教育のなかでどこに当てはまるのでしょうか。

(野田会長)

4 の「多様化する教育課題～」というところに当てはまるかとも思いますが、どうでしょうか。

(岩田主任主査)

野田会長からもおっしゃっていただいたように、具体的にどこに該当するかと言えば4番です。「多様化する教育課題に対応する支援体制の充実」のなかに入ってくるものと思いますが、今、直接的に言及した文章の記載がないので、盛り込めるように検討したいと思います。

(野田会長)

他とのバランスもありますが、内容が盛り込めればお願いします。

(梶浦委員)

私は体育協会の立場から、スポーツのことを重点的に見ました。92 ページ右下のグラフの凡例が小さく、色がわかりにくいため、凡例の四角を大きくしてはどうでしょうか。

また、93 ページの取組に戦略マークがないので寂しいです。戦略マークがないところは度外視されているような気がして寂しい気持ちになります。あえて、「戦略」という言葉を入れる必要はあるのでしょうか。

92 ページと 93 ページを照らし合わせてみているときに、現状・課題のいちばん上の丸が、おそらく取組の内容でいうちばん上の丸に該当していると思います。2 番目の丸はウォーキングという言葉からしても3つ目だと思います。3 番目の丸は

93 ページの丸2つ目だと思います。照らし合わせたときに、順番を揃えたらわかりやすいのではないのでしょうか。

先ほど話題になった79ページの「市の特産品」というタイトルについて、特産品というと、かぼちゃやだいこんのイメージが大きいので、グルメもあるなら「特産品・グルメ」としてはどうでしょうか。清須からあげまぶしは、観光で力を入れて開発したメニューなのですが、清須からあげまぶしと名乗るには何か条件があるのですか。写真だと土瓶で出てくるのですが、全てのお店で土瓶がでてくるのですか。写真ではお店の名前も出てしまっていますがいいのでしょうか。

(野田会長)

1点目は92ページ右下の図表の施策に対する市民の重要度・満足度に関してですが、確かに色が見わけにくいので製本データを作成する際に配慮をお願いします。

2点目は戦略についてですが、まち・ひと・しごと創生総合戦略は、市の様々な取組がある中で、特に、人口減少の問題に起因する地方創生の取組に向けた内容になっていますので、ご理解いただけたらと思います。

3点目は現状・課題の順番と施策の展開の順番を対応して並べることができるのであればわかりやすいのですが、事務局としてはどのように考えていますか。

(岩田主任主査)

現状・課題の3番目の丸は、地域で活動されているスポーツ団体に対する支援について記載したものになっています。これが93ページのどこに該当するかというと、1の「スポーツに触れる機会の創出」のうち、4番目の「市民の自主的なスポーツ活動を推進するため、各種団体の活動や総合型地域スポーツクラブの運営に対する支援を行います。」というところとなっています。そう見ると、今の資料のままで上から順になっていると思います。

(野田会長)

ただこれは、必ずしも対応しているものではないですよ。現状・課題と取組もきれいに区分できない。たまたま、今ご指摘いただいた、92ページ、93ページは両方4つであったので、それぞれ対応するのかなと見えたのですが、地域のものについては、4番目に関係したりする。他にも若干関係する部分もあったりすると解釈できると思うのですが、例えば、92ページ93ページのなかだけでも現状・課題の順番と施策の順番で整合をとるのが難しいということです。必ずしも一対一で対応しているわけではありません。

(岩田主任主査)

おっしゃるとおりで、現状・課題の記載ひとつに対して、取組の内容がひとつあるという構成にはそもそもなっていないので、事務局としてもある程度、順番は意識して案を作成していますが、全てが綺麗に対応しているわけではありません。

(野田会長)

79 ページの市の特産品についてですが、清須からあげまぶしも特産品という言い方でよいですか。また、イメージの写真はこちらでよいですか。

(石田市民環境部長)

清須からあげまぶしは確かにグルメなのですが、もともと市の新たな特産品を開発するという取組の中で生まれたものです。そういった意味で、市としては特産品としていきたいという思いがあるのですが、では特産品として定着しているかと言われると考える必要があるかもしれません。

また、清須からあげまぶしの条件についてですが、鰻のひつまぶしと同じように3種類の食べ方ができること、地元産の味噌を使用すること、愛知産の野菜を使用することという3つの条件があります。申し出ていただいた店舗で、この条件を満たしている場合には、正式に清須からあげまぶしということで市が認定・登録し、ホームページ等で公表しています。ここに載っている写真も、確かに登録されているお店のものですが、店名が出てしまっていますので写真の変更を検討します。

(野田会長)

できる範囲で修正を進めてください。

(山内委員)

47 ページの「清須こども・はぐくみ宣言」は、小学校や中学校にパネル掲示されているのでしょうか。子どもたちにどのように紹介されているのかを教えてください。

(野田会長)

宣言は、子どもに対してだけでなく対外的なものとしてもあると思います。清須市で子育てをして欲しいということだと思います。既に清須市に住んでいるお父さんお母さん方にも、ということもあると思いますが、山内委員が言われたように、この宣言についてはどこかでアピールできているのでしょうか。

(岩田主任主査)

「清須こども・はぐくみ宣言」は、今年の4月に公表しましたが、宣言式と同日に、清須市子育て特設サイトを開設しました。この特設サイトでは、宣言文の内容も勿論ですが、清須市で子育てをすることの特徴、子どもに関連する清須市独自の施策等を紹介しています。このサイトを通じて、市外の方に向けて、また、市内の若い世代、実際に子育てをしている世帯などに向けた周知を図りました。

(野田会長)

特設サイトを制作し、アピールしているとのこと。今後も、ことあるごとにアピールしていったほうが良いと思いますので、よろしくお願いします。

(後藤(隆) 委員)

市の特産品についてですが、34、35 ページをみると、それぞれのいちばん最後「取り組みが求められています」、「必要となっています」とあります。特産品のところだけは「開発に力を入れてきました」となるので、ここも「〇〇が必要です」とう形にしたほうがよいと思います。

2 点目は 98 ページのふるさと納税の受入件数と受入額がありますが、逆に出て行っているものがどれくらいあるか知りたいです。

3 点目は 78 ページ④産業特性のグラフがあるのですが、1.0 は全国平均というのわかりますが、ぱっとグラフを見てこの数字は何なのかがわかりにくいので説明があるとわかりやすいと思います。

⑤事業所数・従業者数を見比べてみると、情報通信業が従業者数 117、事業所が 15 あるにもかかわらず④産業特性のグラフでは 0 です。これはどういうことでしょうか。

(野田会長)

46 ページの書き方は「特産品の開発に力を入れていきます」、「今後もその方向性を継続する必要がある」等の形で検討をいただければと思います。

98 ページについて、出ていっている税収分についてすぐにわかるものでしょうか。

(林企画部次長兼企画政策課長)

ふるさと納税は、他市町の方が清須市に納税をしていただく寄附と、逆に清須市の方が他市町にふるさと納税をすることで市民税が控除され、その分の税収が下がってしまうということがあります。その部分も、実際に数値としてはありますので、このグラフに入れられるかどうかは検討したいと思います。

(野田会長)

グラフに入れるということでもよいのですが、どれくらいなのかを委員皆さまにお伝えいただくことでも結構です。

78 ページの④のグラフと⑤のグラフが違うということですが、④のグラフについては注釈対応できるかと思います。これはまさに特価係数の説明をしたらいいかと思います。

もう一つの疑念として情報通信業が事業所、従業者数が出ているにもかかわらず、産業特性では数値としてあがってこない。おそらく、情報通信業は 1 人でもできるので事業所数のカウントが 4 名以上などかもしれません。経済センサス活動調査を細かく見てもらえるとわかるかと思いますので、そのあたりの確認をお願いします。

((株) ジャパンインターナショナル総合研究所 江口)

このデータは国の出典元においても記載がないものとなります。一定の規模感がないと数値として表れてこないデータになりますし、算出に付加価値額が必要であ

るため、それが明らかになっていない分野については算出がされていないという状況となっています。

(野田会長)

秘匿のデータになっているということですね。個人事業主等でやっているものに対しては統計書に出てきません。情報通信関係はフリーランスでやっている人もるので、そういうところのデータが集計できなくなっているのでは上がってこないという説明だったかと思います。事業所数と従業者数は出ますが、金額が出ないためということでした。

(高山委員)

先ほどの清須からあげまぶしの写真の件に類似しますが、人の顔が映っている写真が目につきます。89 ページの国際交流の写真や 77 ページのお祭りの写真が気になりました。

(岩田主任主査)

計画案に落とし込んでいる写真は、市のホームページや他の広報媒体ですでに使用していたことのある写真、または、各団体から提供いただいたものです。基本的にはなるべく個人が特定できないような写真を使うよう意識しましたが、人がメインにならざるを得ないものもございますので、そういったものは、すでに何かで使用した写真など、問題とならない写真を選定しています。

(野田会長)

すでに使っているものはその時点でご協力を得ているという認識でよいと思いますが、許諾をとる必要があるものがあれば、しっかりと対応をお願いします。

(永田市長)

先ほどの、ふるさと納税についてなのですが、清須市民が他の自治体に寄附することで、実際に本市の税收減となっている額は2億 5,000 万円ほどです。令和5年度をみると、本市への寄附金の収入は約1億 8,700 万円で、単純にこの差し引きをしますと、その差額はマイナスということになります。ですが、ふるさと納税の仕組みは少し複雑で、税收が減った2億 5,000 万円のうちの75%は、地方交付税として国から補填される仕組みとなっています。また、寄附金の収入が1億 8,700 万円ありますが、この5割程度は、返礼品代やその郵送料、手数料等の経費がかかっています。これらをトータルで見ますと、令和5年度、本市においては少しだけプラスになっています。

このような現状なのですが、これらの説明を計画に落とし込もうと思うと、複雑で分かりにくくなってしまうし、背景や現状として伝えたいことと趣旨もずれてしまいますので、このような現状はこの場でお伝えして、計画の記載内容の変更は行わないということでご理解いただきたいと思います。

(野田会長)

地方財政制度、国との関係でという部分もありますし、ふるさと納税で多く寄附金が入ってきている場合はよいですが、入ってきていても返礼品やその郵送料の支払いなどがあります。また、ふるさと納税を媒介している業者に手数料を支払う必要もあり、そのサイトを提供している会社は東京にあり、東京の売り上げになってしまっています。あまりよくない傾向ともいえるのですが、そのようなことをふまえても、清須市においては、上手に少しプラスとなる状況にまで持って行けているということでした。

(水谷副会長)

89 ページ右下表の「審議会等における女性の参画状況」についてですが、これを平成27年から令和5年まで見ていくとなんとなく3割くらいで停滞している感があります。94 ページで達成度指標の3つめ「市の委員会・附属機関等における女性委員の割合」に、基準値 37.7%とありますが、目標値が10年後で40%になっています。これは50%でいいのではないかと思いますでしょうか。

子育てに重点を置いています。清須市に住んで生活していく上で妊娠・出産だけでなく、女性が自己実現したり、まちづくりの活動をしたり、男性社会のなかに入っていく、そしてそこで活躍していくというまちがよいと思うのですが、そういったことを踏まえると委員会の比率は50%を目指した方がよいと思います。市役所の役職のジェンダーバランスをみても男性が多いと思うのですが、そのあたりをふくめてどのような考えかを教えていただきたいです。

(野田会長)

実際の人口の縮図はだいたい50%ずつとなっているので50%を目標にしたかどうかという意見でした。例えば、この委員会もだいたい男女比は6対4くらいだと思います。委員も市役所側からコントロールできずに、受けてくれる人となりますので、結果として今のような形になっており、事務局としても実現可能性からいくと40%ということで設定されているのかと思います。今の意見についてはどうでしょうか。

(岩田主任主査)

参考に、国や愛知県の同様の指標を見てみますと、審議会等の女性委員の割合を「40%以上60%以下」として設定しています。

現状では、例えばこの総合計画審議会も、各種団体の会長の皆さまに多くご参画をお願いしている状況でして、市の裁量だけで女性の割合を引き上げられるかというと、なかなかそうもいかない状況です。そのような中で、少なくとも40%は超えたいということで、現在の目標値が設定されていますが、今いただいたご指摘も踏まえて、再度検討させていただきたいと思います。

(野田会長)

中間目標でというのは難しいかもしれませんが、将来的には半々になるとよいと思います。

(原委員)

55 ページ④死亡要因の円グラフは大きい数字順ではなく、数字がばらばらで並んでいます。こういったグラフだと、数字の大きい順に並べることが多いと思いますが、この数字の並び方に意味があるのですか。

((株) ジャパンインターナショナル総合研究所 江口)

愛知県衛生年報で出されている疾病分類の順番で並んでいます。必ずしも多いものの順には並んでいません。

(野田会長)

疾病の分類に何か重要な意味があるのか、一般にはこのようにすることが多いのか、なども関連してきます。特にこだわりがないならば多い順番でもよいかもしれません。

((株) ジャパンインターナショナル総合研究所 江口)

疾病の分類順になっていますが、一般の方がわかりやすいほうを優先したほうがベターかもしれませんので一度検討します。

(梶浦委員)

55 ページの円グラフについて、引き出し点はあるのですが線が真っ直ぐなものとか曲がっているものがあります。文字も離れていてわかりにくいので修正が可能であればわかりやすくしてほしいです。

先ほどの写真のプライバシーポリシーの話についてですが、その時はよかったが後から載せてほしくないとおっしゃる方もいます。スポーツのほうでも、年数が経ってその競技をやっていることが恥ずかしくなったので削除してくださいと言われたことがあります。顔を載せてほしくないのが掲載した場所から抹消を希望される方もたまにいらっしゃいます。一度承諾を得ても削除してほしいと言われることがあるので注意する必要があります。

(野田会長)

写真の件については、梶浦委員の意見も想定したうえで進めていただければと思います。

グラフについては、エクセル上で仕方がない場合もあります。最後に製本データを制作する際に、見やすくなるようお願いしたいと思います。

(後藤(隆) 委員)

74 ページの目指す姿の達成指標の5つ目に「市の行政事務にかかる温室効果ガスの排出量」がありますが、中間の年度に達成したら現状維持ということですか。

(野田会長)

ここはどのように解釈すればよいですか。担当課から回答をいただけたらと思います。

(石田市民環境部長)

10年後の目標値として、この水準を維持するということが目標であればこのままでよいのですが、中間目標値よりも少ない数値にするというのが本来あるべき姿ということであれば数値を検討し直したいです。

(野田会長)

長期に渡って、継続的にずっと減らし続けていけるものではないので、今、目指す目標を中間目標年次でこれくらいの数値として、これを最終目標年次においても同じくらいを目指しているという解釈でよろしいですか。

(石田市民環境部長)

おっしゃるとおりです。また、理想としては最終年度に向けて、更に数字は減らしていけると良いのですが、今、具体的な数字を出すことができませんので、目標値も中間目標値と同じにさせていただき、中間年度にきた時点で、また次の最終目標値を具体的に数値化できるようであれば、そこを目指していけたらと思います。

(野田会長)

経済活動との関連も出てくると思いますし、徐々に比例的に減っていくようなものでもないで、今の基準値よりかなり減らせるということを中間にすえて、それと同じ状況を維持するという理解でお願いしたいということでした。

まだご発言のない委員の方からも是非ご意見をいただけたらと思います。

(佐藤委員)

今回の案では、写真やイラストなどが入って、より見やすく、理解がしやすい計画の案になったと感じています。

(山田(宗)委員)

前回から参加させていただき、まだ質問できるほどまで追いついていないので意見を述べるのは控えておりましたが、もっと強烈に清須市に住みたい、清須に来たいと思えるように、誰が見てもわかりやすいことがもっとできるのではと思いました。

例えば、私は名古屋市ですけれどもPTAを務めたことがあります。その時に自分は何ができるかを考えました。私の子どもが小さい頃は、刃物を持っていた不審者がいたという情報が多くあり、学校まで迎えに来てくださいということがよくあったのですが、刃物を持った不審者がいるところに、お母さんたちが迎えに来いというのはとんでもないことだと思いました。最悪の場合、子どもを迎えに来たお母さんも子どもも一緒に被害にあってしまいます。そこで、私たちが即座にやったのは、登下校の際に不審者が近づきにくいように、子ども防災ボランティアジャンパーを作り、必ずその時間には地域の皆さま、特に男性に協力いただき、ジャンパーも着用して見守り活動をしてもらいました。それを有志ではじめたところ、学区に広がり、中学の学校区まで広がり、結果として不審者が出なくなりました。その活動だけでも地域がよくなったんです。予算もそんなにかけずに簡単なことで

す。地域の協力があれば、このような取組もできると思いますので、是非検討いただけたらと思います。

(野田会長)

今の防災の取り組みについても、具体的な実施計画でもプログラムの改善につながるので参考にいただければと思います。

(後藤(鈴)委員)

先ほどから観光協会に関する質問等もありました。79 ページは更なる力を入れていこうというのはそのとおりです。

ここで言うべきか迷いましたが、76 ページの清洲城の入場者数の回復はよい傾向だと思います。このなかに、清須市の昔のことや歴史的背景も少し入れるとよいかもしれないと思いました。

(野田会長)

ここはスペース的に入れられるか難しいところかと思います。また、資料①の序論の部分にも、既に清須市の沿革や歴史についての記載がありますので、更に追加で記載が必要かは、一度事務局でご検討いただけたらと思います。

(水野委員)

清須市には歴史があるので、歴史をもう少し全面に押し出して将来的にPRできる方法があればと思います。

また、清須市は愛知県でいちばん出生率が高いということでした。ここに予算を多くつけて、全国的に人口が減っていくなかで清須市は減らないという方策が立てることができたらよいと思います。

(野田会長)

歴史ある清須、また、子どもに関するの支援を充実させて、それをPRできたらという意見でした。

委員の皆さま、たくさんのご意見をいただきありがとうございました。

それでは、ここで決をとりたいと思います。

次期総合計画の基本構想及び前期基本計画については、今回のこの案を基本としながら、本日委員の皆さまからいただいたご意見をふまえて修正を行っていくということによろしいでしょうか。

<異議なしの声>

(野田会長)

ありがとうございました。以上で予定していた議事をすべて終了します。

最後に全体を通してご意見はありませんか。ないようなので、進行を事務局にお返しします。

4 閉会

(林企画部次長兼企画政策課長)

皆さまありがとうございました。次回の会議のご案内になります。第5回の審議会は、9月26日、木曜日、午後2時からの開催を予定しています。正式なご案内につきましては改めてお送りさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、第4回清須市総合計画審議会を閉会いたします。

本日も長時間にわたりご審議を賜りまして、ありがとうございました。

会議の経過を記録して、その内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。

署 名 委 員 山田 宗 宏
署 名 委 員 佐藤 あつ子

